

成長戦略特別委員会会議録

I 日 時 令和5年2月15日(水)

午前9時30分開会

午前10時25分閉会

II 場 所 第2委員会室

III 出席委員

委員長	稗苗 清吉
副委員長	奥野 詠子
委員	瀬川 侑希
〃	藤井 大輔
〃	川上 浩
〃	山崎 宗良
〃	井上 学
〃	火爪 弘子
〃	杉本 正
〃	鹿熊 正一

IV 出席説明者

知事政策局

知事政策局長 三牧純一郎

知事政策局次長(成長戦略室長)

舟根 秀也

成長戦略室戦略企画課長 島田 太樹

成長戦略室ウェルビーイング推進課長

牧山 貴英

成長戦略室民間活力導入・規制緩和推進課長

川渕 貴

成長戦略室創業・ベンチャー課長

石崎 智雄

成長戦略室カーボンニュートラル推進課長

杉原 英樹

V 会議に付した事件

- 1 人材育成・確保、起業支援について（SCOP TOYAMA入所企業との意見交換会の課題整理）
- 2 委員会活動の経過について
- 3 行政視察について
- 4 その他

VI 議事の経過概要

- 1 人材育成・確保、起業支援について（SCOP TOYAMA入所企業との意見交換会の課題整理）

奥野副委員長 それでは、人材育成・確保、起業支援について議題といたします。

1月19日にSCOP TOYAMAにおきまして、1階と3階の2会場に分けて行いました入所者との意見交換会で上がった意見を共有し、課題を整理したいと思います。

当日は2会場に分かれて、それぞれでやっておりましたので、どちらの会場でどのような御発言があったか、皆さんまだ共有はできていないと思います。これについて共有をして、まとめたいというものであります。

当日の意見概要は、お手元に配付してある資料のとおりです。

ここで、委員間の意見交換に入る前に、当局から補足説明等がありましたら御発言をお願いいたします。

石崎創業・ベンチャー課長 補足説明ではございませんが、一言申し上げます。先月の意見交換会后、改めて報道機関の方に取材いただくなど、SCOP TOYAMAの周知や創業の機運の高まりにつながっていると感じておりまして、意見交換会を開催いただき、本当にありがとうございました。

奥野副委員長 ありがとうございます。

当日の意見交換は、2会場とも大変な盛り上がりであったと伺っております。

ここで、委員間の意見交換に移りたいと思いますが、ただいま稗苗委員長がいらっしゃいましたので、稗苗委員長から御挨拶をお願いいたします。

稗苗委員長 遅刻しました。魚津のほうは8号線が雪で大渋滞していました。それは言い訳になりませんが、遅れてすみません。副委員長、進めてください。

奥野副委員長 それでは、委員間の意見交換に移りたいと思います。どなたからでも結構ですので、当日の意見交換の中から、これは特に今後の課題としてしっかり取り組むべきではないかというような観点等ございましたら、御発言をお願いしたいと思います。

火爪委員 私は1階の会場に出席しました。私から、今困っていること、悩みはありませんかという質問をさせていただいて、それに対していろいろな率直な話があって、聞いてよかったなと思っています。

幾つか感じたんですが、喫茶店などのお店を準備しておられる方が何人かおられました。あの場所で大丈夫なのかなと。3年間もあの場所でショップを試行するのは大変かなと。イベントのとき以外はお客さんが来ないということで、そういう職種の人には、サテライトというか、お店の出張場所も提案をしてあげればよいのではないのでしょうか。例えばもっと短く、半年ぐらいSCOPE TOYAMAで営業したら、チャレンジショップの出店先を人通りのあるところに確保してあげるとか。

それから、保育所が決まらないというお話も含めて、直接創業とは関わらない相談もいろいろあったわけです。その後、なんとか保育所が決まったとお伺いしています。4

月からの入所が決まっていなくて、それが最近決まりました。3月も決まりました、やっと。2月23日からお店を開くと言っているのに、保育所が決まらないまま2月を迎えるということがありなのかと。

彼女が言っているのは、県外から移住してきた人なのに、ちっとも便宜を図ってもらえないと。会社勤めと違って自営業は保育所入所のための点数が低い。しかも、お店と住居が一緒の人は、さらに点数が低い。そして、創業準備と言ったらさらに点数が低いということで、こんなことがありなのかなという話だったと思うんですね。

確かに富山市は、今まで移住者をそんなに一生懸命中心部に入れたことがないんだと思うんですね。それこそ鹿熊委員が、うちの朝日町ならいいよと言っておられましたけれども。移住促進に一生懸命取り組んでいる周辺の自治体と、富山市の中心市街地部分は、やっぱり姿勢が違うんじゃないかなと改めて思いました。

こういうことも含めて、私が感じたのは、例えばSCOPE TOYAMAに入居するとき、保育所がそんな状況になっているという相談を受けて、保育所が決まらないうちに開業日を決めるのはちょっと無謀なので、保育所の様子を見ながらしたらどうですかということをおアドバイスしてもらおうというか。そういうことも含めて、もろもろ創業に関わる相談ができて、適切なアドバイスを総合的にできる伴走支援が必要です。そこで解決できなくても、解決するところにちゃんとつないであげて、経過を見てあげるような伴走支援。融資の話もありましたし、取引業者をもっと紹介してほしいという話もありました。多種多様な相談に乗れるような伴走支援力をどうやって備えていくかは大きな課題だと感じました。

杉本委員 資料5ページに書いてあるんですが、「ひつじの」

という羊毛を使った店をやっている人が、客が来るように、富岩水上ラインにSCOPE TOYAMA周辺に停泊してほしいと言われたんです。そのときも僕ちよっと言っていたんだけど、ここを提案した萩浦の自治会長で亡くなられた方が僕に、この住友運河のところまでずっと富岩水上ラインが入れるようにできないかと。奥のほうにアイザックの足湯もあるし、あそこに劔岳を見られる展望台みたいなものを造って、ということをやっていたんだけど、僕は、それは無理だと。

奥まで水上ラインが行って帰る時間的なことで無理だ、ただ、ここに停まることについては、研究の余地があるのではないかと。どのくらいの人がここで降りるか。このSCOPE TOYAMAで商売する人はいいかもしれないけれども、ただ、降りる人がいなければ停まる時間などの無駄なものもあるから、それについては役所でも研究して、人が降りて来られるようだったら、やっぱり停めることも考えられてもいいんじゃないかと感じました。

藤井委員 私が参加した会場では、富山以外にも拠点を持っている会社さんがおられまして、地域航空をやっているジェイ・キャス株式会社さんや、地方のエリア開発をやっているらっしゃる合同会社quodという会社さんがおられました。

その方々は富山以外にも、いろいろなところに拠点をお持ちですが、ゲストハウスみたいなものが欲しいという話が出ておりました。いろいろな打合せで富山に来ることがあったとしても、仕事をする拠点としてはSCOPE TOYAMAがあるし、この人たちは多分月に10日間など、それぐらいのペースで富山での仕事という形になると、居住スペースでの契約までいくとトゥーマッチです。あとは、ゲストの方をお泊めすると、SCOPE TOYAMAは狭

過ぎるということもあって、ホテルを利用していらっしやっただけですけれども、そうするとやっぱりコストがかかってしまうと。あと、あの周辺はホテルが少なく、駅北まで行けばあるのですけれども、SCOP TOYAMAにゲストハウスの機能があると、やっぱりいろいろな多拠点で新しいベンチャーをやりたいと思っている会社さんがもう少し使いやすくなるんだらうなというのは、そのお話を聞いて分かりました。

あと、私の友人で、起業して富山に興味を持っている方が東京にいます。SCOP TOYAMAは面白いと言いつつも、やっぱりちょっと小さいと。執務室スペースが少し小さく、機能としてはもう少しほしいというようなことを言われたことがあります。ゲストハウスもそうですし、もう少し広いスペースで使いたいというニーズに対してどう応えるかということも必要なのかなと感じました。

あと、場所のアピールの仕方が、県外の方にどう伝えればいいのかすごく難しいですね。もともと古い官舎だったところを高校生の発案によりリノベーションしたすてきなところですよ、運河沿いですよ、と言うのですけれども、それはロケーションやストーリーとしてはそうなのかもしれませんが、ビジネスをやる上でのメリットがなかなか伝え切れないなということで、私自身もどういう工夫をすればいいか知恵を絞りたいなと感じたところです。

井上委員 私は、3ページ一番上にありますが、利用料金のことについて質問しました。皆さんやっぱり、都会の利用料金に比べると、SCOP TOYAMAは圧倒的に安いという話をされました。

気になったのは、SCOP TOYAMAの駐車場料金がたしか3,000円ぐらいで、あまり安くないんですよ。富山で言えば普通ぐらいの値段なので、せっかく県がこれだ

け力を入れて支援するなら、創業・移住促進住宅の料金自体も、駐車場料金含めて、もうちょっと安くしてあげることも必要じゃないかなと思いました。

それから、皆さん全員が車で移動されているとは限らなくて、ある方が言っておられましたが、蓮町の駅からS C O P T O Y A M Aまでの道に全く街灯がなくて、非常に暗いと。夜はとても怖いという話をされていて、なるほどなと思ひまして。こういうところの配慮も、これから必要になってくるんじゃないかなという気がいたしました。

川上委員 4 ページに書いてありますが、いわゆる伴走者の常駐というか、ビジネスにつなげていくための伴走支援をしてくれる専門的な人なり、そういった方々の常駐は必要ではないかなと思いました。

特に思ったのは、テックネストという会社をやっている方、A Iによってお酒のおいしさを数値化するというのをやろうとしている方ですけれども、今、富山県の酒造メーカーの活動が非常に活発になっているときに、どうつながっていいかわからないとおっしゃっていて、大変驚きました。私聞いていて、えっ、そんなこと誰もアドバイスしていないのかと、単純に思いました。

伴走する人がやっぱりちゃんと、今富山の動きがどうなっているのか、そういったような話を彼に対してアドバイスしていくということがとても大切だと思います。

あわせて、やっぱり創業支援ですから、新しいその方の切り口を見いだしていかなければいけないということから考えれば、そういう中でのビジネスモデルをどう組み立てていくかというようなことまでもアドバイスが必要だと思いますね。そういう点が大切かなと思っていました。

もう1つ驚いたのは、終わった後に下りてきたら、私に声をかける人がいて、ぱっと見たら、長くお付き合いしてい

るコンピューター会社の方でした。その方が第二の人生としてここで起業するんだとおっしゃっていて、今、富山県の中で大変問題になっている中小企業のいわゆるデジタル化についての起業をするんだと。リモートメンテ、いろいろな細かくフォローすることをやるんだというようなことを言われて、こんな人もいるんだという驚きと同時に、ああ、やる気があるんだなということも思ったりもしました。

あの場所はあの場所として、研究施設としてはいいと思いますけれども、やっぱりもう少し世の中の刺激があるような場所のほうがよかったのかなという気持ちもしました。

というのは、施設とすれば、県の職員住宅を改築してやったということですが、創業支援というか、いろいろな刺激を受けるには、果たしてそういう場所が適切だったかどうか、私もちょっとどうなんだろうと思いました。

最後に1つ。トイレに手洗いがなかったのはショックでした。

瀬川委員 私は1階の会場でしたけれども、大変熱意を持って飛び込まれた方々だったので、本当に話を聞いていて応援したいなという純粋な気持ちになりました。

一方で、共通していたのは、皆さんそれぞれの悩みを抱えて不安がっている様子も見てとれたところです。私の中で、その不安は何なのかなと考えると、大きく2つに分かれると思っていました。1つは、起業したばかりなので、専門家とのつながりがほしいという不安がありました。

意見交換会では要望もありましたけれども、常駐して何でも相談できる方がいたらいいという話もありました。それを聞いて、確かにそうかもなと思ったんですが、よくよく考えてみると、常駐もいいんですけども、常駐すると何でも相談してしまうので、自分の中で深める時間もやっぱり必要だと思うので、せめて定期的に面談するような場

があれば、それで十分なのかなと思ったところです。そんなふうに、専門家とのつながりについての不安が少し見えました。

もう1つは、企業やキーマンとのつながりが薄いという不安でした。そこに関しては、自分の中で2つ解決策があるんじゃないかなと思っています。1つは、県内に幾つか同じようなコワーキングスペース、創業支援の施設——例えば富山市だとHATCHというところがあったりする。同じような起業家の卵がそこでやっているの、そこともうちちょっと連携させてあげたらいいのかなと思いました。

あとは、すばらしい構想を持っていらっしゃる方ばかりだったので、事業をプレゼンする、紹介するような場を用意してあげることが、県庁としてもできることなのではないかなと思いました。年に1回やっている「しあわせる。富山」のカンファレンスなどで、今その創業支援センターで頑張っている方はこんなことをやっています、と広く紹介する場を用意する。あるいは商工会議所などの講演の時間で、若手の起業家の事業紹介をするような場を私たちや県庁が準備してあげること、企業やキーマンとのつながりができるのではないかなと感じたところです。

鹿熊委員 先ほど火爪委員がおっしゃいました出店への支援に関して、確かに思いましたのは、カフェをされる方がおられて、基本3年、あそこで営業されると。それから、実際にどこかで開業するという流れがあると思いますけれども、火爪委員がおっしゃったように、やはりスムーズに本格的なスタートができるような支援が必要だなと、私も今聞いて思ったのが1つ。それから各委員の皆さん方の御意見を聞いて、県が言っておられるスタートアップエコシステムをつくっていかうということが、まさに今おっしゃったようなことの課題としてあるのかなと思いますね。

よく分からない、エコシステムって何だろうということが、今の皆さんの発言の中にあるような気がします。要するに、いろいろな形の支援体制を築き上げていくということなんだろうと思うので、先日の皆さんとの意見交換の場を通して、その必要性は私も感じましたし、そういうことではないかなと思いついておりました。

山崎委員 私は意見交換会当日は参加できなかったのですが、以前、麻生要一さんの講演会がSCOPEで開かれたときに参加をさせていただきました。渋谷キューズがあって、富山のこのSCOPEがあって、日本全体の物すごい濃いソースの部分が富山のSCOPEでも体験ができて、そういう交流が持てるというところが、このSCOPEの一番の核になるのかなと、そのときに感じました。

起業する人がとても効率的に事業を行い、爆発的に企業が成長していくときにキーになるのは、やっぱり人だと思います。自分が相談しやすい、道が開けるような新しい人とどれだけつながれるかというところが一番のポイントだろうと思います。今皆さんから聞いた意見も、本当にそうだなと思いますし、今の流れは非常にいい流れなんじゃないかな。必要なソースを持ったエネルギーの高い人と会う機会、これがどれだけできるかがこの芯になるのかなと改めて感じました。

奥野副委員長 私が意見交換会の中で気になりましたのは、やっぱりこのSCOPEという場所に皆さん期待しているものの1つとして、みんな起業したてで同じような立場で、いろんな刺激をお互いもらいながら、切磋琢磨をしていく、また、他業種の方と色々な話をする中で新しいひらめきがあるといった、1人でやっていたはなかなか得られないような、化学反応的なものを求めてSCOPEに入所されています。

S C O P の設置目的の中にもそれは入っておりますし、多くの入所者の方もそれを求めて来ていらっしやったと意見交換の中でも聞きましたけれども、実際は入所している方同士の交流が少ないと。期待していたような切磋琢磨で新しい化学反応が起きるところまでは至っていないということで、何か仕掛けが必要なのかなと感じました。

意見交換の中で、同じ入所者の方であっても、日中はほとんど皆さんしっかりお仕事していらっしやるので、そういうときにまだ仲よくなっていない方に話しかけづらいと聞きました。箱だけ用意しても、交流はまだなかなか生まれにくいのかなというお話もありました。

中には、いろいろなイベントの開催や、休憩時間をそろえること、ランチの時間を何かイベント的にそろえてみるなど、入所者の方からの要望もありました。ぜひここが箱だけに終わらずに、人との交流が何より盛んな場所だということに誘導できるようなきっかけづくりを、またいろいろ考えていただきたいなと思いました。

もう1つは、確かにいろいろ S C O P T O Y A M A の施設は、先ほどの話にもありましたが、ストーリーもあるしロケーションも悪くはないし、いい空間ではあると思いますけれども、行政が設置しているビジネス面でのアドバンテージというのがちょっと見えにくい。民間のところとは違う施設なんだということも、もう少し差別化ができればいいのではないかなと思います。

先ほど瀬川委員からも、いろいろなプレゼンの機会を創出することや、他のいろんな団体さんとの交流の場を持つようにしたらいいのではないかという話もありました。S C O P T O Y A M A 入所希望者が殺到して、そこで選ばれた方たちがようやく入れて、そこに入れるとどんな支援を受けることができ、民間とは違って、ここでやる意

味があるんだということが明確に見えてこないと、もうちょっと立地がいい別のコワーキングスペースを使おうかとなりかねない。わざわざここに人が来る理由というのが、これから先は見えづらくなってくのではないかなということも思いました。先ほどは伴走支援の話もありましたけれども、民間よりもここを選んでもらった方にどういうところで利点があるのかということの創出についても、これからよりブラッシュアップしていければいいのかなと感じております。

火爪委員 1階の会場でもシェアオフィスの数が足りないのではないかという意見が出ていて、人気の度合いにアンバランスがあるわけで、それも引き続き対応が必要なのではないかなと。県外から移住してこられた方に住んでいただく上では、大変いい環境にあると思うので、そこら辺を大事にすべきと思います。

伴走支援の話に戻りますけれども、委託をしている企業はあるかと思うんですけれども、例えばこの間のような意見交換会で出た意見についてどう対応していくのかを、すぐその後に話し合うチーム——委託企業と県と新世紀産業機構と、できれば富山市も入っていただいたらいいなと改めて思いました。やっぱり、月に1回ぐらい交流会をやって、そこで出た悩みなどについて、対応をどうするか、どう支援していくのか話し合っただけですぐ対応するようなチームが要るんじゃないかと思いました。

どれだけ悩みを言っても誰も助けてくれない場所にならないように、やっぱり入所者の期待に応えられるようにすべきだと思いました。

保育所の話に戻って恐縮ですが、彼女は、もう各地の保育所の門をたたいているんですよ。みんな断られているんですよ。富山県がつくった防災危機管理センター内にある

保育所も尋ねて、断られているんですよね。事業所内保育所もあるけれども、それは入れないということで、物すごい苦労されている。

それで、その事業所内保育所という発想から言えば、人数が少なくてSCOPE TOYAMAに事業所内保育所をつくれなくても、例えば地元の萩浦保育所にその枠を確保してもらおう。そうしたら若い子育て世代の起業家がもっと魅力を感じられるんじゃないかと思ったので、相談対応者が常駐するかどうかは別として、やっぱり悩みにすぐ応えられるような体制が必要なんじゃないかなと思いました。

藤井委員 今の火爪委員からの話も受けてですけど、DIGI-POC TOYAMAのイベントが9月にあって、それでいろいろ富山県の政策課題について民間企業の方々のアイデアを受けて取り組んでいる中の1つに、キッチハイクさんという会社が保育園留学をやられるということで、上滝保育園を利用した保育園留学を実験されるということで、今ちょうどプレオープンに向けてやっていらっしゃるという形かと思います。

確かにそのDIGI-POC TOYAMAのように、政策課題について、東京なり県外のベンチャーの人たちの考え方と、今のSCOPE TOYAMAにどうしてもハード、ソフト的に足りないものがあつたとき、うまくマッチングすること——今話に出ていた課題について、保育園留学のような発想をしていくと、移住まではいかなくても、短期間の間、富山でSCOPEを創業の拠点としつつ、子供も見ながらやっていくという柔軟な考え方ができるのかなと。

要は、ショットでSCOPEを使っているだけでもなく、永住というか移住して完全に富山にいるわけでもない、ちょうど中間の働き方に対して支援できるので、この保育園

留学という考え方は面白いなと思っています。しかもそれがD i g i - P o Cで実験される。同じ成長戦略室の中でやっていることだと思いますので、うまくマッチングされたらさらに課題解決ができるのかなと感じました。

井上委員 5ページにあります学生さんの話で、これは大事な話だと思いますけれども、富山県立大学の学生さんで、学割制度を使って今S C O Pに安く入っていらっしゃるんだけど、県立大学の中に起業部をつくろうかということをおっしゃられました。

そして、自分が起業部とS C O P T O Y A M Aをつなぐ役割を果たしていきたいとおっしゃられて、それで支援をお願いしたいと。これはいいポイントで、大学生がこれから起業するのに当たって、しっかりと支援していく制度とか施策を考えていくべきじゃないかと思っています。彼が先駆者になって、県立大学の中に起業部ができればいいなと強く思いましたので、これはぜひ要望しておきたいと思っています。

瀬川委員 3ページにもありますが、シェアオフィスがすごく人気で、もう全て埋まってしまった状態かと思うんですけど、シェアオフィスとして使っているところを分割する、あるいは共通で使うようなことをして、広げられないかというような話が出ていました。

もう定員に達しているので、入りたいという人を今お断りしている状況で機会損失になっているところを、少しの工夫で何とかできるのであれば、単純に人も増えますし、何か工夫の余地があるのかなと聞いていて思いましたけれども、成長戦略室で何か御検討されていることはあるんでしょうか。

石崎創業・ベンチャー課長 シェアオフィスのほうはもう満杯になっていて、コワーキングスペースの利用が少ない、

それであればコワーキングスペースを改装してシェアオフィスに活用したらどうだという提案をいただいていたんだと思います。実際のところ、我々としては、反対にコワーキングの利用を高めていきたいと思っています。本当に多種多様な皆さん方に来ていただいて、もっとコミュニティーを活性化しないといけないという観点でいうと、まだちょっと低調になっているコワーキングスペースの利用率上昇に実は注力したいと考えております。

瀬川委員 もちろん時期が一番大事なことではあるんですけども、入りたいという方を残念ながらお断りしている状況で、シェアオフィスも回転していく中で、出ていく方もおられるときに、一度問い合わせしてくれた方の情報は内部で持っておいて、すぐ御案内できるような形で、常に多くの方が入るような声かけをしていくべきだなと思いましたので、提案させていただきます。

牧山ウェルビーイング推進課長 藤井委員から今お話がありました保育園留学の件でありますけれども、せっかく御紹介をいただいたので、補足的に御説明をさせていただきます。

私どもウェルビーイング推進課は関係人口の創出のミッションも担っているんですけども、その中でワーケーションの推進をやっております。今、御紹介の保育園留学のキッチハイクさんの件につきましては、我々の課のほうで直接やり取りをさせていただいています。アイデアは先方から出たものですが、例えばこういった保育所があり得るのか、そして、富山に旅行のような形でテレワークに来ていただいて、お子さんをその間どうするのかといったときに、保育園留学と組み合わせていただく。

そういったときに、お泊まりいただく施設、そしてワーケーションですから、テレワークスポットなど、どこかで

仕事をされる、併せてそのときにお子さんをお預かりいただける保育園を組み合わせる。キッチハイクさんの実験は上滝保育園で実施ということなんですけれども、やはり保育園の空き状態は地域によって濃淡があって、上滝辺りですと結構受入れ余力もあることを、富山市役所さんに確認をした上で、おつなぎさせていただいたという例でございます。大変先進的な取組だと思っていますので、ぜひ他の市町村さんに、こういったことがあるよということをお知らせしていければと思っています。

奥野副委員長 ありがとうございます。

ここまで大変いろいろな意見、当日の感想などの御発言をいただきました。SCOP TOYAMAのビジネス面でのサポート、伴走支援をこれから入所者さんのニーズに沿ってより厚くしていく必要があるだろうということであり、ビジネスをしっかりと軌道に乗せていくための周辺の支援もセットで考えていく必要があるだろうと、そういうお話が多かったのではないかと思います。

保育のお話もありましたけれども、周辺の支援については、当然県の担当部署だけではなくて、ほかの部局、部署や市町村との連携もより重要になってくるだろうと思います。特にこの場所は、県外からの方や、複数か所の拠点を持っている方たちなど、幅広くいろいろな条件の方が使用されている実態もございますので、また幅広くどういうサービスを充実させていくことができるのかを今後の課題として、改めて挙げていきたいと思っています。

ただいま確認いたしました課題については、今後も議会の場や各関係の委員会の場で議論をして、当局側と一緒に解決につなげていければと思っています。

ここまで先般のSCOP TOYAMAでの意見交換会並びに人材育成・確保、起業支援というテーマで意見交換

をさせていただきましたけれども、そのほかに何かございますか。

藤井委員 先ほど鹿熊委員からもスタートアップエコシステムという言葉がありましたけれども、起業や創業を考えたときに、ここに集っていらっしゃる方のお仕事や考えを全く否定するのではなく、それぞれの方に頑張ってもらいたいという応援の気持ちがあります。一方で、スモールビジネスというか、自分の趣味や得意を生かして、少ない人数であっても価値のある、例えばハーブティーや羊の毛織物というのは、スモールビジネスという言い方ができる一方で、ベンチャーとも言えます。例えば中小企業のDX支援など、今後必要になってくるイノベーションを提供していったら、やっていきたいと思いますというのは、スタートアップというよりはベンチャーという言い方になるのかな。

スタートアップとなると、破壊的イノベーションという感じで、我々の想像を絶するような物すごいテクノロジーや物すごい発想、もっと言えば、破壊的なのでこれまでの産業そのものも置き換えてしまうようなことを考えていくようなことなんだと思います。

それこそ明治時代に浅野総一郎さんや高峰譲吉さんがやられたことというのは、まさにそんなスケールだったと思いますけれども、このSCOPE TOYAMAをスタートアップエコシステムの拠点だとするのは、ちょっと私的には違和感を感じると思います。もう少しスモールビジネスや持続的イノベーションを支援するような、スタートアップほどではないかもしれないけれども、それぞれの方々の独立や創業の思いを支援していく——どういう言い方がいいか分かりませんが、スモールビジネスエコシステムだっていると思うんです。

スタートアップエコシステムの定義とこのSCOPE T

O Y A M A のギャップが存在しています。もうちょっと丁寧な伴走支援という話が出てきているということは、これはスタートアップエコシステムではないのではないかなと思っています。

本当にスタートアップエコシステムをやるんだったら、大学の研究機関や、ベンチャーキャピタルなどという投資や金融の本当のプロフェッショナルというような人たちがはまってこないといけないと思っています。そういう意味でいくと、また英語になってしまいますけれども、メンターやアクセラレーターという人材がやっぱり必要で、もしかしたら富山県内にいないような人たち、私がたまたま御紹介した麻生要一さんもそのうちの一人かもしれませんけれども、そういった人たちが必要です。あと、コミュニティーのネットワークにしても、破壊的イノベーションを創造したいと思う物すごいスピリットを持った人たちとのコミュニティーはあると思いますけれども、そういう人たちと、例えばもう少しスモールで私らしい仕事をしたいと思う人たちは、交わっても交わり切れないというか、そういうふうにしたものですから、スタートアップエコシステムをつくるということと、S C O P T O Y A M A に集った方々を支援していくということのギャップをすごく感じています。

何か結論めいたものがあるわけではないのですが、スタートアップエコシステムという言葉の定義も含めて、私はすごく怖いなというふうにも思うというか。このS C O P T O Y A M A が1つのスタートアップエコシステムなんですと富山県が打ち出すということになると、えっ、富山県ってこれをスタートアップエコシステムと言っているの、というふうに思われるだろうと思うし、本気でスタートアップを考えている人たちにどう映るんだろうと、そ

ういう違和感を覚えているということだけは、お伝えさせていただきたいなと思っております。

すみません、結論もないままお話しして。

奥野副委員長 動き出したばかりの S C O P T O Y A M A でありますので、この後、ここをどういう支援の場にしていくのかという位置づけの整理や、入所者さんが何を求めているここに来ているのかということもあろうかと思えます。今、藤井委員からいただいた御指摘も踏まえて、どのような支援をどこでやっていくのかという今後の整理も必要なかなと思いました。

それでは、以上で、人材育成・確保、起業支援についての課題整理の場とさせていただきます。

2 委員会活動の経過について

奥野副委員長 次に、委員会活動の経過についてを議題といたします。

令和3年度及び令和4年度に実施した委員会活動は、お手元に配付してある資料のとおりであります。

これらの活動について、委員長から所見を申し上げます。

稗苗委員長 先般は S C O P の 1 階と 3 階に分かれての意見交換会だったため、その後のこういう意見共有の場がほしかったので、急遽本日、委員会を開催させていただきました。また、県庁の幹部の皆さんにもこの意見を聞いていただいて、課題解決の前進に取り組んでいきたいと思えます。

この成長戦略特別委員会を、2か年にわたって実施してきました。配付してある資料のとおり、令和3年11月には県内ワーケーションをテーマに、立山町、魚津市を視察させていただきました。

また、令和4年3月には、人材育成・確保についてをテーマに委員会を開催いたしました。

令和5年に入りまして、富山県での創業についてという

ことで、S C O P T O Y A M A の現地で意見交換をさせていただいて、本日の取りまとめの会であったわけであり
ます。

2年間にわたって活動してきたわけですが、以前にもお話しさせていただきましたが、委員会を預かる身として、現場で学ぶ、それから役所の中でも学ぶということで、年2回の活動を目標に取り組んできました。

私は今回で県議の任期を終えるわけですが、4月に選挙が終わってから、また特別委員会の構成等もあろうかと思
います。私の脳裏にぐっと引っかかっているのは、県の組織の中にもこの成長戦略というテーマが随分クローズアップされてきて、知事もウェルビーイングを提唱して、共に成長していくんだということ。これが、僕の頭の中ではぐるぐると混在しているんです。

今様々な意見を出していただいたS C O P T O Y A M A のことについてもそうですし、新しい年度に入られて、県議会の特別委員会のありようを検討されるときには、この2年間の成長戦略特別委員会であったこと等々について、しっかりと意見を述べてもらいたいということを申し上げて、活動報告とさせていただきます。

蛇足ですが、この特別委員会は、御案内のように、大型予算を持っていたり、必ずしも年何回開かなければならないというような縛りが少ないわけですが、現在は3つの特別委員会がございますが、大事な委員会だったなと思っています。委員の皆さんの協力も当局の協力も、本当にありがとうございました。

取りまとめの委員会の際にちょっと遅刻しまして、申し訳なくて、副委員長に助けていただいたわけであり
ます。

以上であります。ありがとうございました。

3 行政視察について

奥野副委員長 次に、行政視察について議題といたします。

行政視察については、実施の有無も含めて委員長に御一任願いたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

奥野副委員長 御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

以上で、付議事項についての審査を終わります。

4 その他

奥野副委員長 この際、ほかに何か御意見等はありませんか。
— そうしましたら、本日は当局側からも三牧知事政策局長はじめ幹部の皆さんに御出席をいただいております。何かございましたら発言をお願いしたいと思います。

三牧知事政策局長 本日参加させていただきまして、ありがとうございます。

成長戦略も、ウェルビーイングをはじめ、我々も引き続き丁寧な説明をしていきたいと思います。D i g i - P o Cのお話もありましたが、ばらばらとやるのではなくて、施策に取り組んでいく中で、やっぱり横を連携させていく、ウェルビーイングの今後の施策も部局を超えた連携をしていきたいと思います。本日は入所者の方の御意見をまた改めて聞かせていただきましたけれども、県民目線、利用者目線をしっかりと施策につなげて、効果ある施策をつくっていくことが成長戦略の中でも非常に大事だと思いますので、引き続き頑張ってください。よろしく願いいたします。

奥野副委員長 ありがとうございます。

それでは、これをもちまして委員会を閉会いたします。

成長戦略特別委員長 稗苗 清吉

